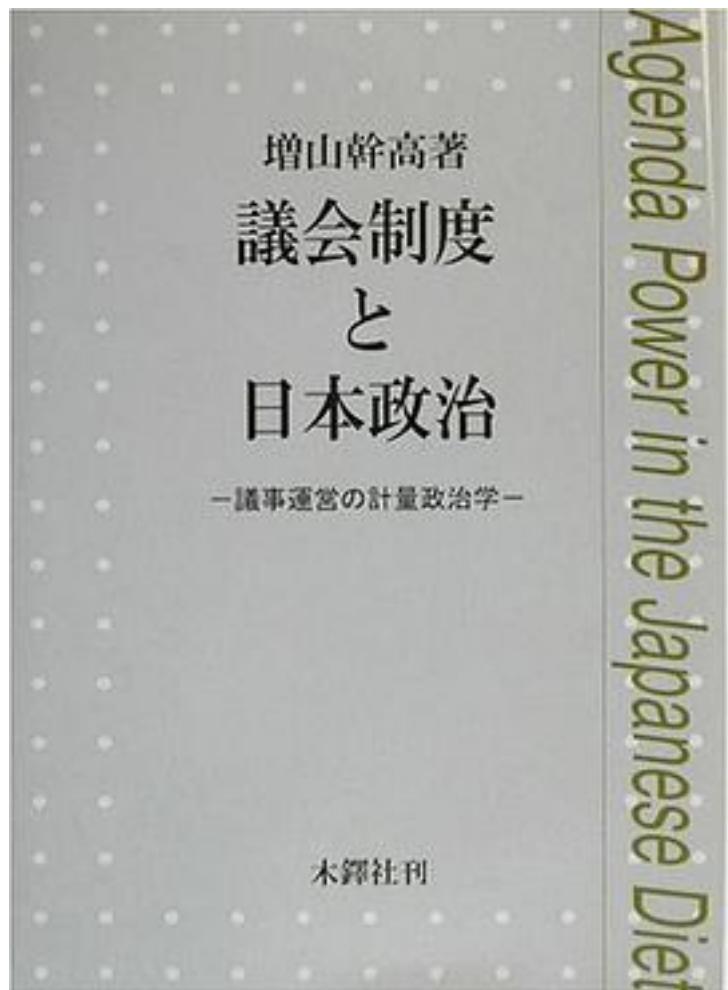


# 議会制度と日本政治



[議会制度と日本政治 下载链接1](#)

著者:增山幹高

出版者:木鐸社

出版时间:2003-10-1

装帧:精装

isbn:9784833223393

既存研究のように、理念的な議会観に基づく国会無能論やマイク・モチツキに端を発する行動論的アプローチの限界を突破し、日本の民主主義の根幹が議院内閣制という

制度に構造化されていることを再認識し、この議会制度という観点から戦後日本の政治・立法過程を体系的・計量的に展開する画期的試み。

作者介绍:

増山 幹高（ますやまみきたか）

1964年京都府生れ

1989年慶應義塾大学法学部卒業

2001年ミシガン大学Ph.D(政治学)取得

現在 成蹊大学法学部教授

目录: 第1章 序論

第2章 国会研究における観察主義

第3章 国会は全会一致的か？

第4章 議事運営の分析方法論

第5章 議事運営による非決定

第6章 議事運営と立法時間

第7章 議事運営と立法的効率

第8章 議事運営と行政的自律

第9章 政権流動期における議事運営

第10章 結論

• • • • • (收起)

[議会制度と日本政治 下载链接1](#)

标签

日本政治

民主政治

政治制度论

评论

挺有意思的，Levithan有一期特集是增山，福元两人的对论。那样的相互揶揄，还最后说“人格对立抜き”。也真感觉“学者”们的日常趣味果真迥异于常人。就福元的著作而言，本质上还是Mocizuki议会黏着论的延伸，当然福元自己也承认，议会内阁制下的议会并不具备议案变换的能力，这一点是无疑的。就一党优位制下议会审议样式的变迁来说，福元更加关注的是议会内政党政治的部分。就增山来说，则倾向于传统的议会内阁制下的议会观。在某一政党议会多数制霸的前提下，什么黏着论都是吃饱了撑着，没事找事的议论。不过这两部著作真的算是日本政治学研究里为数不多正面的学术争论。双方都涉及了不同的理论，方法和规范取向。所以真是让人大开眼界~

---

[議会制度と日本政治 下载链接1](#)

## 书评

---

[議会制度と日本政治 下载链接1](#)